

女子部高等科1・2・3年

「指導の記録」

永野馨 佐々木順子

I. はじめに

高等科のプログラム

- ・パトリック・リチャード作詞作曲、横山潤子編曲
「創造の詩篇」(女声合唱)
- ・ツェーザー・フライシュレン作詩、信長貴富作曲
「くちびるに歌を」(混声合唱)
- ・ヘンデル作曲『メサイア』より「ハレルヤ」
(高等科・学部混声合唱)

「創造の詩篇」は、いくつもある詩篇の中より4篇が用いられている。編成は主に女声三部だが、後半では六部に分かれるところがある。私達の身近である詩篇に現代の作曲家が作曲した作品で、8分の6拍子であることや歌詞がフランス語であることは、生徒たちにとって大きな挑戦であった。

また「くちびるに歌を」は、高等科の混声合唱としての初めての試みだった。

II. 練習の実際と作品理解の学習

今回の選曲で大きな壁となったのは、歌詞言語である。「ハレルヤ」は英語、「くちびるに歌を」は日本語と一部ドイツ語、「創造の詩篇」はフランス語であったためだ。まず、読み方を徹底することから始めた。英語はまだ親しみがあるが、ドイツ語とフランス語に親しんでいるのはごく一部の生徒だったため、読み方や発音の仕方をわかりやすく説明し、繰り返し練習した。フランス語の話せるティーチングアシスタントに発音指導をしてもらうこともあった。

次に壁となったのは歌詞の意味だ。意味がわからず歌っては、音楽が生きてこない。単語の意味や発音記号などを記譜した資料を楽譜と共に持ってもらった。

また、イメージが沸きやすいように、文章を表現した写真や絵を各教室の黒板に貼ったり、縮小して印刷したものを、各自に配布もした。

夏休み前に各学年のパートリーダー・副パートリーダーと3年生の音楽会リーダーを決め、体操会後にパート

リーダーの役割やクラスのとめ方などを再認識するために集ってもらった。学年により多少の温度差もあったが、生徒たちの気持ちが次第にまとまり出したことが感じられた。

10月半ばには、前最高学部長の大貫隆先生に詩篇についての特別授業をして頂いた。「旧約聖書の詩篇について」に始まり「新約聖書の中の詩篇」まで、幅広い講義を受けた。最後には今回の作詞者パトリック・リチャードの「創造の詩篇」についてまとめてくださった。次の音楽の授業で復習して聞いてみたところ、「創造」や「光」の意味を生徒たちはきちんと理解できていた。

また、翌週には外部講師の蓮沼勇一先生に合唱のご指導をいただいた。蓮沼先生は暁星小学校聖歌隊を指導され、全国で有数の歌声を作り上げることで有名な方だ。ペットボトルを用いた発声や8分の6拍子の感じ方など、中味の濃い授業をしてくださった。

11月に入ると、学年ごとに演奏しては積極的に意見を交換している光景があった。そこには「自分たちが演奏するのだ」という意識の高さと、お互いに屈託なく意見を言える雰囲気があった。本番三日前には、お客様に何を聴いて頂きたいかを全員に書いてもらったが、「聴いている人に幸せを届けたい。祈りを込めて歌います」「ただ歌うだけではなく、一人一人の心が伝わるような演奏がしたい」など、驚くほどの熱いメッセージがあった。

III. 終わりに

準備段階での忙しい毎日乗り越えて全員が本番に臨み、結果として「一人も欠けずに全員でゴールすることに合唱の大きな意味がある」ということを感じさせる演奏になったと思う。演奏会後の生徒たちの感想は「自分でも驚くほど楽しみながら歌えた」「歌っている中で皆の気持ちが一つになっていくのを感じた」など、心に残るものばかりだった。音楽を通してお互いに助け合い、支え合える素晴らしさを、生徒たちが感じられたと信じている。